**○○技能実習評価試験問題作成要領（例）**

１　試験の合格に必要な技能・知識の程度及び出題範囲は、○○の別表１に定める「○○技能実習評価試験の試験科目及びその範囲並びにその細目（試験基準）」に合致したものとする。

２　試験問題作成後は、必ず試行試験を行う。

３　試験に使用する言語は、日本語とする。

 (1)受検者が理解できる程度の平易な日常の言葉（「主語＋修飾語＋述語」程度）とし、口語体を用いる。

（2）初級の試験においては、平仮名で分ち書きし、ヘボン式ローマ字を併記する。

 (3) 試験問題は絵や写真を有効に利用する等、受検者が試験問題の内容を理解することが容易になるよう工夫する。

 (4) 初級の試験については、試験監督者による試験問題の読み上げ等を行い、その後、受検者から質問等を受け付け、同時に受検する者全員が聞くことができるように解説する。ただし、試験の解答又はその参考につながる解説は行わない。

４　実技試験問題

 (1) 試験形式は製作等作業試験（、判断等試験及び計画立案等作業試験（判断等試験及び計画立案等作業試験を課す場合のみ））とする。

 (2) 各作業別の選択問題とする。

 (3) ○○作業及び作業の安全に関する技能等を評価するものとする。

　(4) 試験時間は６０分程度とする。

 (5) 試験問題（判断等試験及び計画立案等作業試験に係るものを除く。）は事前公表する。

 (6) 使用機器及び材料等は次のとおりとする。

　 ①・・・

 ②・・・

 ③・・・

５　学科試験問題

 (1) 当該職種の一般事項については共通問題とし、各作業ごとの専門事項については

選択問題とする。

 (2) 単に専門的な知識の有無を評価するものではなく、作業の遂行に必要な正しい判断力及びそれに関する知識の有無を評価することに主眼を置くものとする。

　(3) 問題数は、上級においては５０問、専門級及び中級においては３０問、初級にお　　　　　　　　いては２０問とする。

　(4) 出題形式は、上級及び専門級においては多肢選択法と真偽法（○×方式）の組み合わせ、中級及び初級においては真偽法（○×方式）とし、正答の数を得点とする。

　(5) 試験時間は６０分とする。ただし上級は１００分とする。